

DIGITAL
NEWS
LETTER

細見コレクション名品選

麗しき日本の美

前期 若冲と江戸絵画の世界
後期 琳派を愉しむ特集展示
茶の湯と
かざり

後期

3月17日(木)～4月17日(日)

琳派を愉しむ

細見コレクション名品選

麗しき日本の美

The Elegant Beauty of Japan: Selections from the Hosomi Collection

平成23年1月28日(金)～4月17日(日)

若冲と江戸絵画の世界

前期

1月28日(金)～3月13日(日)

細見美術館

主催 細見美術館

休館日 毎週月曜日(但し三月三十一日は開館、エエ日は休館)

展示時間 三月十四日(月)～十六日(水) 午前十一時～午後六時(入館は午後五時三十分まで)

入館料 一般 1,000円(八〇〇円) 学生 八〇〇円(六〇〇円)

来館内は二〇名以上の団体料金

会場 細見美術館 京都府京都市左京区岡崎最勝寺町六三

〇七五二五五五五 <http://www.hosomimuseum.jp>

ご優待
一般 1,000円～800円
学生 / 800円～600円
本紙にて4名様まで200円割引

ホ
HOSOMI MUSEUM

トピックス情報

1) 表紙

2-3) 前期: 若冲と江戸絵画の世界 1月28日(金)～3月13日(日)
「展覧会のここがみどころ」4-5) 後期: 琳派を愉しむ 3月17日(木)～4月17日(日)
「展覧会のここがみどころ」

6) ART CUBE SHOP

様々な時代やジャンルを象徴する作品で構成されている細見コレクション。

本展では多彩なコレクションから人気の高いジャンルを精選し、前期に若冲や北斎をはじめとする江戸絵画を、後期では華麗なる琳派の世界を紹介して参ります。また、茶の湯の道具や調度に施されたかざりもあわせてお楽しみください。

この機会に、日本美術の繊細、優美な感性が息づく麗しき日本の美をご堪能ください。

細見コレクション名品選

◀ 「麗しき日本の美」展チラシ(表面)

細見美術館

2 0 1 1
S P R I N G
I S S U E
N U M B E R 0 4

若冲と自然へのまなざし

ぜんぶ見つかるかな？

京都錦小路の青物問屋の主人だった若冲。糸瓜もよく目にしていたのでしょう。糸瓜の実の模様や花や葉、蔓にいたるまで細部までこだわって描いています。さらに糸瓜に群がる虫たちにもご注目。11種の生物が描かれていますが、すぐには見つけれません。若冲からの挑戦状だと思って探してみてください。どの生き物も丁寧に精密に描かれていて、触角や足に生える細かいギザギザまで、見るのに虫眼鏡が必要なほど。驚くべき観察力です。普段私たちはものをちゃんと見ているようで、見ていないのだということにも気付かせてくれます。

代表作「動植綵絵」のうち「池辺群虫図」にも同じポーズの虫が登場していますが、この作品はそれより前に描いたと考えられています。



伊藤若冲 糸瓜群虫図(部分)

江戸絵画の精華

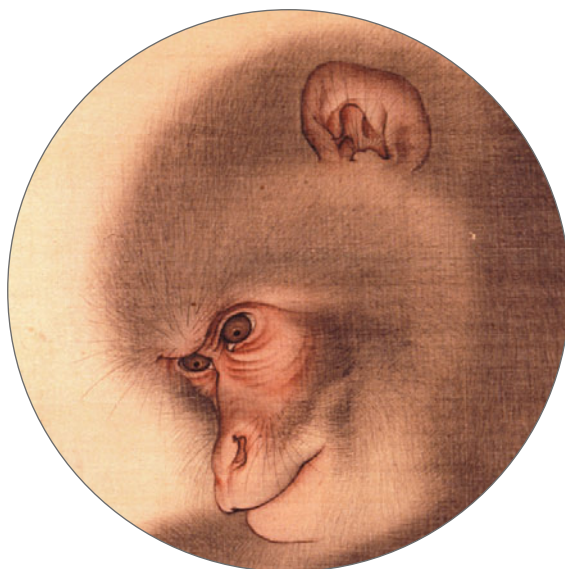
リアルな絵とは？

江戸時代の中期以降は「リアル」が意識された時代。西洋から医学や測量術などがもたらされ、人々は実物に則したものの考え方や見方に目覚めます。絵画の分野もこの流れを受け、今では当たり前前に思えますが、対象を見て描くスタイルが流行ります。円山応挙が一世を風靡した理由も、ものを見て描く写生を重視したからにほかありません。

動物の毛描きを得意とした狙仙も写生派の一人。猿の毛の質感をリアルに描こうとしています。

親猿の真剣な表情も微笑ましく、優しい情愛が伝わってくるようです。

また文人画では絵師の心の風景が描かれているといえます。つまり「リアル」も人それぞれ。何をもってリアルとするかは絵師によっても異なっています。表面的なものだけでなく、絵に込めた絵師の心もリアルに感じ取りたいものです。



森狙仙 猿図(部分)

展覧会の「こころ」が見えぬ

浮世の諸相 - 風俗画が伝えるもの -

北斎、女性を描き分ける！

富嶽三十六景や北斎漫画でよく知られている浮世絵師 葛飾北斎。最近では伊藤若冲という強力なライバル？も出現してきましたが、北斎ほど日本人画家で、海外でも知られている存在はないでしょう。

さて、ここでは五人の美女が登場する作品をじっくりご覧下さい。北斎は一人一人の女性をうまく描き分けています。例えば、煙管を^{キセル}もった女性①には眉がありません。実は眉を削っているのは、既婚者の証。一方、赤い絞りの髪飾りを付けているのは若い娘②。これは若さを印象づけるための必須アイテム。さらに髪を結うための櫛をさしているのは髪結い③です。肌身離さず、仕事道具を持ち歩いているようです。反物を持つ二人は呉服店の使いか、胸元を広めに開けている方は娘姉とも考えられます。このように立場も年齢も異なる五人の女性を見事に描き分ける、北斎。さすがは世界の巨匠です。

こうした美人画に限らず、名所絵や祭礼図などの風俗画は、当時の流行りのファッションや髪型、遊び等々、人々の関心事・暮らしぶりを教えてくれる、有難いものなのです。



葛飾北斎 五美人図(部分)

特集展示

茶の湯とかざり

愛でる喜び、触れる楽しみ

茶の湯の道具をはじめ、工芸品の多くは鑑賞するだけでなく、使い触れる楽しみもあります。ここでは高さ5cmに満たない様々な形の容れ物にご注目ください。これらは香合と呼ばれるお香を入れる蓋付きの容器で、お茶の席で用いる器の一つです。香合には陶磁器や漆器などがありますが、サイズは小さくとも、使用者の五感を刺激する魅力が凝縮されています。

手の中にすっぽり収まるこうした小さな美術品は、時に厳しい眼でモノを見極める彼らの心を和ませ、一層、蒐集の世界へと引き込んでいったことでしょう。



織部分銅形香合

織部菊兜香合



志野宝珠形香合

展覧会の「こ」が見どころ

典雅なる京琳派 芳中は何琳派？

昨今、定着した江戸琳派という呼称に対して、敢えて宗達や光琳を「京琳派」と呼ぶようになってきました。では大坂で活躍した中村芳中(？-1819)は何琳派なのでしょう。

芳中は京に生まれ、若い頃には京や大坂を往き来し風雅な遊びに興じていました。俳諧の仲間や文人画家たちとの交流の中で光琳の存在を知ったのかもしれませんが、光琳の単純で明快な造形を意識した『光琳画譜』を出版したことから、芳中は「光琳風絵師」と評されます。

そんな芳中画の最大の特徴は「たらし込み」。宗達が用いた、絵具や墨の滲みや量しを利用する描法です。太い筆で施すゆったりとした輪郭線も見どころ。ユーモラスな表情の動物や人物、デフォルメした草花を得意としました。

宗達や光琳のエッセンスを凝縮した芳中こそ「ザ・京琳派」といえるのかもしれませんが。



中村芳中 白梅小禽図屏風(部分)

江戸琳派の洗練 一味違う、江戸琳派の画家・其一

江戸琳派を興した抱一門下筆頭の弟子、其一。紫染職人の息子として生まれた彼は、当初、染物の下絵を描くために抱一の門人となったようです。抱一の叙情的な作風を慕いながらも、徐々に光琳のようにモチーフの形や色にこだわり、独自の画風を確立していきました。

特に、主題の捉え方は他の江戸琳派画家たちとは一線を画しています。積もった雪で大きくしなる竹や飛び立つ雀の一瞬の動きに対し、雪をかぶった紅梅の中に静かにたたずむ雀という対照的な作品を並べる画面構成(雪中竹椿小禽図)。また瀟洒な花鳥画にボウリングのピンのような「糸瓜」を大胆に配置し、見る者にインパクトを与えるといった意表を衝く作品も描いています(糸瓜に朝顔図)。

主題の特徴を生かすことにかけては、江戸琳派随一の其一。現代にいたら、カメラマンやデザイナーとしても活躍していたかもしれません。



鈴木其一 糸瓜に朝顔図(部分)

展覧会の「こ」が見どころ

京琳派と江戸琳派

近代に生きた2人の琳派画家

本展では京琳派と江戸琳派を分けて紹介しています。ところが琳派の代表者、宗達や光琳、そして抱一は活躍した時代がバラバラ。ここでは試みに同じ近代に生きた神坂雪佳(1866-1942)と酒井道一(1845-1913)を京琳派代表、江戸琳派代表として見てみます。それぞれの特徴が浮かび上がってくるかもしれません。

雪佳は生粋の京都人。はじめ四条派の絵を学んでいましたが琳派の装飾性に着目し、光悦や光琳をお手本に意匠家としても活躍しました。大胆な画面構成やデフォルメなどの手法は、宗達や光琳を彷彿とさせます。

道一は抱一の孫弟子にあたり、雨華庵四世を継いでいます。江戸の美意識を伝える江戸琳派の正統な後継者として活躍しました。花鳥画を得意とし、江戸琳派の情趣的な要素を活かしつつ、明快で写実味のある作風が特徴です。

二人を比較すると、モチーフを当世風にアレンジして、装飾性豊かに仕上げるのが京琳派。江戸琳派は四季の移ろいを描きつつ、丁寧な筆遣いで花や鳥の特性を美しく表現するのが得意といえそうです。

長い琳派の流れを経て、さらに明治という変革期を超え、二人の画家がそれぞれの琳派スタイルを築いていく過程に思いを馳せながら作品を鑑賞するのも楽しいかもしれません。

特集展示

茶の湯とかざり 鉄の美を愛でる

釜の美しさは伝わりにくい一茶碗や香合のように手に載せ、風合いを味わうには、釜はあまりに重く、姿を見る機会も多くはありません。

しかし、茶の湯に欠かせない釜は、単なる道具から鉄の芸術へと進化していきました。熱への耐久性、使い易さを意識した胴の薄さは高度な鑄造技術に支えられています。さらに、洗練された形や表面に見られる繊細な文様、美しい絵画的表現、装飾性に富んだかんつき鑲付など、まさに匠の技の結晶と言えます。

鉄製であるにもかかわらず、しなやかさと優美さを湛えた茶の湯釜をお楽しみ下さい。



神坂雪佳 楓紅葉図(部分)



酒井道一 山吹に稻荷人形図(部分)



芦屋松藤図真形釜(部分)



越前芦屋竹椿図真形釜(部分)

展覧会の「こ」が見どころ

ARTCUBE SHOP

おすすめアイテム「お香」

寒さで家にこもりがちなこの時期、
お香で気分を変えてみるのはいかがでしょうか？
いい香りは日々の生活に癒しと楽しみを与えてくれます。
当店では様々なシチュエーションに合わせた
お香を取り揃えております。
ピッタリの香りと出会いにいらしてください。



柳図香包 白檀 ¥2,625、沈香 ¥3,150

当館所蔵の尾形光琳「柳図香包」を再現したオリジナル商品。
香包を開くにつれて表れる柳の枝や幹の変化が面白く、
見た目にも楽しめるセットです。柳の葉形の香立付き。



バンブーディフューザー
竹、桜などの5種類 各¥1,365

小瓶に竹のパーツを挿しこむとオイルが浸透し、部屋全体に香りが広がります。火も使わず安心。インテリア感覚でご使用下さい。



文香 散華 5個入り ¥945

手紙に香りを添えて送ってみるのはいかがですか？
他にも本のしおり、カバンに忍ばせるなど沢山の用途がある優れものです。



香立 丸 ¥1,890

山形の伝統工芸「山形鑄物」の香立は、どんなシーンにも合うシンプルで機能的なデザイン。これ一つでスティックタイプとコーンタイプ両方のお香に対応できます。※お香は別売りです。



波佐見焼の四角キャンドル
すずらん、月花美人などの5種類 各¥1,575

ゆらめく炎と優しい香りに心まで癒されるアロマキャンドルです。
波佐見焼のケースは、小物入れなどにも使えます。



練り香水 白檀、桜、天竺葵の3種類 各¥2,940

上品な和の香りは、気分を変えたい時にピッタリ！
手首などにつけて、ほのかな香りを楽しんでください。
巾着付きなので携帯にも便利です。

ARTCUBE SHOPお問合せ先 TEL075-761-5700